



特集

## 農業始めてみませんか

● 問合せ 農業振興課農政企画係 (☎③2557)



少子高齢化に伴う人口の減少や国際化の進展といった時代の流れの中で、農業を取り巻く環境は大きく変わってきています。

農業従事者は高齢化し、新たな農業の担い手が不足することによる耕作放棄地の増加など、さまざまな問題が全国的に起こっています。

このことは伊万里市でも例外ではありません。肉用牛や梨、きゅうりをはじめとする農産物などが、佐賀県を代表する産地として有名になる一方で、いかに新規就農者を確保・育成し、産地を維持していくかが重要な課題となっています。

そのような中、市内には農業の魅力を感じ、新規に就農する若手農家が毎年誕生しています。

今回の特集では、市内の農業の現状や、新規就農者が農業の世界に飛び込むに至った経緯、農業に対する思いの紹介などを通じて、職業としての農業を考えます。

「あなたも農業始めてみませんか。」

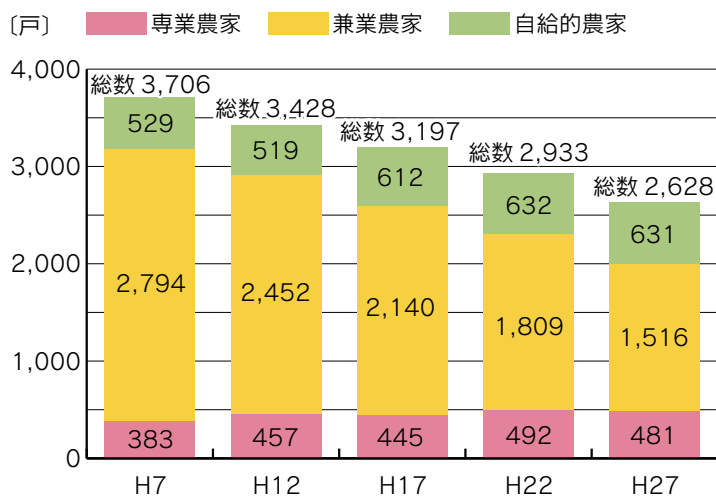


管理が行き届かず、荒れてしまった水田

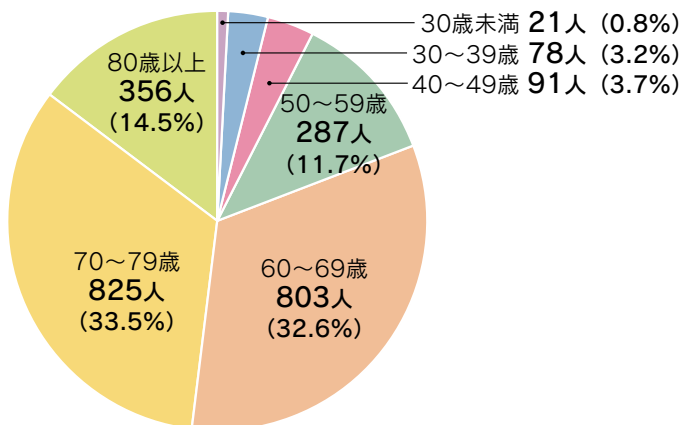
■耕作放棄地の問題点

農地は耕作をするなどして常に管理をしていないと、雑草が繁茂して病害虫が増えたり、イノシシなどの有害鳥獣の住みかになったりしてしまいます。また、農地同士は隣接し、近くに宅地があることも多く、一つが耕作放棄地になると、他の農地や宅地などにもその影響が及んでしまいます。

【グラフ1】農家数の推移（平成7年～27年）



【グラフ2】年齢別の基幹的農業従事者数（平成27年）



※ グラフ1・グラフ2の数値は農林業センサスより

# 農業の担い手が 地域から消えていく

農業者の減少と高齢化

市内の農家の数は年々減り続け、平成7年に3706戸だったものが27年には2628戸と、20年間で約3割も減少しています【グラフ1】。

また、平成27年の年齢別の基幹的農業従事者（※）は、60歳以上が8割を超えており【グラフ2】、若い農業の担い手が極端に少ない状況にあることが分かります。

※基幹的農業従事者：自営農業に主として従事した世帯員の内、ふだん主に農業に従事した人

農業のさまざまな役割

農業の役割は、食糧を生産することだけではありません。例えば、先人たちが多くの時間と手間をかけて作り上げた農地の用排水の仕組みには、大雨での土砂災害を防ぐ機能もあります。また、農地を管理することで、有害鳥獣の生息域と人間の生活区域を分ける役割もあります。

農業者の減少の問題は、全ての人の生活にも深く関わる問題といえます。

## 市内の農業の状況

市内の農家数（2,628戸）は、県内（21,994戸）の約12%を占めています（2015農林業センサス）。

農業は地域全体に米作中心の農家が多く、『夢しずく』や『ヒノヒカリ』などが作付けされています。

また、九州有数の生産量を誇る梨のほか、きゅうりやたまねぎ、アスパラガス、いちご、ねぎなどの生産も盛んです。

畜産では肉用牛が盛んで、市場では『伊万里牛』や『佐賀牛』の名で高く評価されています。





【表】新規就農者の推移

単位：人

H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	合計
6	7	14	8	8	11	54

※平成29年の新規就農者11人の内訳  
 米・麦(2人)、施設野菜(5人)、果樹(1人)、  
 花き(1人)、畜産牛(2人)

### 『胡青会』の活動



胡青会のメンバー

JA伊万里きゅうり部会の若手で作る『胡青会』は、SNSなどを利用して日頃から情報を共有し、また、定期的に勉強会を開いて栽培技術の向上や収穫量の増加を目指しています。メンバー同士が互いに相談に乗ったり技術を教え合ったりすることで切磋琢磨し、部会全体の平均を上回る収穫量を上げられるまでになっています。

# 農業を選ぶ人たちと

## その思い

### 新規就農者の状況

農業者が減り続ける中、新しく農業を始める人たちもいます。市内の平成24年から平成29年の新規就農者は54人【表】で、就農に至った理由や事情はさまざま。家業を継いだ人や、それまで農業とは無縁の仕事をしていた人、仕事

を通じて知り合った農業者から刺激を受けて就農を決意した人もいます。

その人たちはどのような思いで農業を選び、農業についてどう考えているのでしょうか。就農を決意するに至った経緯などを通じて、農業の魅力や再認識するヒントがあるかもしれません。

### 新しく農業の世界に飛び込む

新規就農者の中で、まず話を聞いたのは、東山代町できゅうり農家を営む梅村晃太さん。それまできゅうりの栽培については全く知識や土台がなかったといいます。

伊万里産のきゅうりは品質が良く、大阪や北九州などの市場を中心に出荷され、高い評価を受けています。

若手のきゅうり農家で作る『胡青会』のメンバーでもある梅村さんに、農業の世界に飛び込んだきっかけや、きゅうり栽培の魅力などを語ってもらいました。

## 手をかけた分だけ結果につながる事がきゅうり栽培の魅力です

きゅうり農家  
梅村 晃太 さん (東山代町)

### profile

平成27年3月、勤めていたJA伊万里を退職し同年4月から妻の優美さんときゅうり栽培を始める。実家は梨農家だがそれまで本格的な農業の経験はなかった。30歳。



↑午前中に収穫したきゅうりはその日のうちに出荷



梅村さんのピニールハウス。真夏の作業は特に大変だとか



妻の優美さんも農業未経験からのスタート

### ■ インタビュー

前職では多くの農家の人と話をする機会がありました。その中できゅうり栽培を行う若い農家の人から刺激を受け就農を決意しました。始めた当初は休日なく長時間働くこともありましたが、今はなるべく休日を取るようにしています。忙しいですが、手をかけた分結果につながる事が魅力です。定期的に研修会などに参加し、周りの人からもサポートしてもらえるので助かっています。地元の保育園にも出荷していますが、将来を担う子どもたちにおいしく食べてもらえることにやりがいを感じます。今後はもっと作付面積を増やし、子育て世代の女性なども雇用していきたいですね。

# 『家業を継ぐ』 という選択

先代に学び、農業に新しい風を吹かすために

家業の牛農家を継ぐことを選んだ浦川健治さんと、妻の実家の家業の梨・ぶどう農家を継ぐことを選んだ小林良さん。父や義父の指導を仰ぎながら勉強する日々を過ごしています。

先代が築き上げた基盤があるとはいえ、さまざまな苦労もあるようです。それでも、前職での経験などを生かし自分なりの工夫や改善をしながら、農業の道を進んでいます。

2人に将来の展望などについて話を聞きました。

## セオリーやマニュアルがないところが 難しくもあり、魅力でもあります



生産・肥育牛農家  
浦川 健治 さん（二里町）

**profile**  
JA伊万里での営農指導員（野菜担当）を経て、平成29年1月から本格的に家業の畜産を引き継ぐ。牛のほか水稲も手がける。35歳。



↑常に牛を観察し、体調上げがなどの状態を確認



自宅周辺と有田町に牛舎があり、合わせて約100頭を肥育管理

### ■ インタビュー

JAで勤務する中で、農業に対していつも魅力を感じていて、同世代の若手の新規就農をうらやましく思っていました。父が足を痛めて入院したのを機に、家業を継ぐ決心をしました。生き物相手の仕事のため、個体差がありとても難しいですが、よい牛を育て出荷できた時の喜びはひとしおです。今後は、生産牛を中心に、生産と肥育の一貫経営を軌道に乗せたいと思っています。牛を一から始めることはハードルは高いですが、本当に自分のやりたいことであれば、行政の補助金なども利用でき、相談できる人もいるのでぜひチャレンジしてほしいですね。

### ■ インタビュー

就農して一番良かったと思うことは、家族との時間が増えたことです。自宅が職場のため、時間の使い方は調整次第ですが、その反面、仕事とプライベートの境目があいまいになりがち。そうならないようメリハリをつけ、子どものためにも基本的に日曜は休むようにしています。今、梨・ぶどう農家は後継者不足で生産量も落ちていますが、裏を返せばその分需要があるということ。前職で培った営業ノウハウなどを生かして販売ルート



梨の交配の作業をする妻・ゆかりさん

を拡大していければと思っています。よく「作業が大変でしょう」と言われますが、会社員時代と比べて、農業が特別きついとは感じていません。



師匠で義父の三津男さん

## 前職での経験を生かして新しいことにも 取り組んでいきたいです

梨・ぶどう農家  
小林 良 さん（南波多町）

**profile**  
長年会社勤めでこれまで農業経験なし。妻の実家である南波多町に引っ越してきたことをきっかけに義父の営む農業を手伝うようになり、平成28年途中で仕事を辞め本格的に梨・ぶどう栽培を始める。41歳。



↑ハウスいっぱい咲く白い梨花





- まずはこれが大切
- ①農業に対する情熱と意欲
  - ②家族の理解と協力
  - ③地域とのコミュニケーション

## ～ 就農までのみちすじ ～

### ①相談する

農業を始めたいと思ったら、まずは関係機関へ相談しましょう。

・主な相談窓口

▷市農業振興課農政企画係 (☎☎2557)

▷伊万里農林事務所 (☎☎5128)

▷市農業協同組合 (☎☎5560)



### ②情報を集める

農業に関する基本的な知識を収集しましょう。農家を見て回ったり、経営主の話を聞いたりするなど多くの人の声を聞くことも大切。農園での農業体験や新規就農者向けのセミナーなども開催されています。



### ③就農計画を作る

自分の経営目標を明確化しましょう。農業といってもさまざまな作目があり、それぞれに経営のやり方が異なります。特に右上の7つはしっかり確認しておきましょう。



### ④農業技術を習得する

農業を営むためには、確かな技術が必要です。やりたい農業のイメージが決まったら、技術や経営ノウハウを身に付けましょう。先進農家での研修や、農業大学校などできちんと基本を学びましょう。



### ⑤就農準備

農業に必要な農地、施設、機械の準備はもちろん、新しい土地で始める場合は住宅の確保も必要です。

# 新規就農のすすめ

## 職業として『農業』を選ぶ

今回紹介した3人に共通することは、就農のきっかけはそれぞれでも農業に対し魅力や可能性を感じ、自らその道を選んでいるということです。しかし、実際に農業を始めるためには設備投資などの費用の工面や、専門知識の習得

などさまざまな準備が必要で、不安なことも多いはず。そのような農業を始めようとする人に対し、国・県・市などでは補助金などさまざまな面でサポートする仕組みがあります。あなたも職業の選択肢に『農業』を加えてみてはいかがでしょうか。

### ◇ 就農計画7つのポイント ◇

1. どんな作物を栽培(どの家畜を飼養)するのか
2. どこで就農するのか
3. 栽培方法は(露地栽培か施設栽培かなど)
4. 経営タイプは(単一作物専業経営など)
5. どれくらいの規模で経営を開始するのか
6. どれくらいの所得を目指すのか
7. 1～6を達成するために必要な技術・施設などは

## 『青年等就農計画』認定制度

認定新規就農者になることで、農業技術習得のための支援や、無利子の制度資金、補助事業などの公的支援を活用できるようになります。

### 《受けられることができる支援措置》

#### ①青年等就農資金の活用

就農に必要な施設整備や運転資金として3,700万円までの無利子資金の融資

#### ②施設整備などへの補助事業の活用

新規就農者を対象とした国・県・市の補助事業

#### ③農業次世代人材投資事業の活用

農業技術や経営ノウハウの習得のための研修に専念する期間や経営が軌道に乗るまでの期間を対象に年間最大150万円の資金を交付

#### ④市や関係機関による総合的なフォローアップ

各種セミナーや勉強会の開催など

※『青年等就農計画』認定制度の対象とならない親元就農者に対し交付する給付金もあります。

※詳しい内容や支援を受けるための条件などは農業振興課に問い合わせてください。